

三井 新成 議員

## デジタル化と働き方改革による多様性と人口増への期待



▶ コロナをきっかけに硬直的な働き方から、大きなパラダイムシフトが起きています。テレワークにより、仕事と日常のバランス意識、地方移住に対する意識の変容が起きています。生活を重視した地方移住への関心が高まり、職業選択、副業等の希望も出ております。多様性とは、子育てしながら、介護しながら勉強や趣味を充実させながら、様々な経験を持つ人が働ける場所を提供することが求められています。今後行政に求められている要望に応えることが人口増へとつながります。

牛山 基樹 議員

## 攻めの誘客事業、検証のないままの継続はよかったのか



▶ 新型コロナ緊急対策として国からの地方創生臨時交付金を使った5200万円の町内2リゾートでの山梨県民と6市町村民の優待事業であったが、途中から一般財源を活用し総額1億550万円の事業となった。多くの来場者が見え魅力の発信も出来て喜ばしいが、一般財源を使う時には立ち止まり、町民の視点、各個店への効果などから見た評価検証を行い、必要であれば改善や新たな提案が必要である。行うことと同じくらい大切なことは部分最適ではなく、総体の評価と改善の意識共有である。

五味 仙一 議員

## 移住・定住者の増加と未満児・園児の受入体制について



▶ 移住・定住希望者が増加しているという報告を聞き、それと同時に保育スタッフの確保に苦慮している話が頭を過った。未満児・園児の待機児童の動向が心配となり確認したところ、本年度は何とか対応できるが、来年度以降は増加動向の把握が大変難しいとのこと。特に未満児の受入はスタッフの増員と増床が急務となる為、事前に余裕をもって準備する等の判断は困難極まりないが、この局面を上手に乗り越え「待機児童ゼロ」を継続することを喫緊の課題と捉え何とか実現してもらいたい。

五味 平一 議員

## 重要なこと。何故だめなのか 予算・決算常任委員会の設置



▶ 現在は2つの委員会(各5人)分割付託された議案(予算含む)を主幹ごと事務調査を行っている。その結果を本会議で説明・質疑・討論・採決の手順である。問題は所属しない委員会の予算について理解出来ぬまま、決算を迎える。この委員会設置により議長を除く10名全議員で構成された委員会で審査でき、そして予算を審査した全議員が決算審査を、決算審査の結果を次の予算に反映しやすくなることから、議会のチェック機能は一段と高まるし付帯決議も出しやすい。

小倉 裕子 議員

## 町単独コロナ関連補助金の効果検証について



▶ 町は、新型コロナウイルス感染症に係る支援策として、事業者及び町民応援メニューを数々打ち出し実施した。大きいものは、町民応援振興券と2大リゾート施設借上げであり、両事業ともに、施設や商業への還元ができ、取り組みは大きな話題ともなり、テコ入れになった。しかし、本当の効果は、今後の事業にどうつながっていかれたかである。当該事業がどの程度町内需要に結びついたか、各支援策における効果分析資料の提出を随時求め、新たに実施される支援策実施の判断材料としたい。



## 議員の視点

1 新年度予算編成の流れをこう読む

町は議会の議決なくして町政運営することはできません。決算で出された評価点や提言が、事業実施計画と予算に活かされるように議員は予算編成に注視します。  
行政内部では、次のような段取りを踏んで町の事業実施計画が作られ、それに沿った予算が編成されていきます。

- 1 9月上旬から中旬  
9月定例会にて決算の審査・認定
- 2 10月上旬  
次年度の各課方針書に基づき町長ヒアリング
- 3 10月下旬から11月中旬  
予算編成連絡会議及び予算入力・実施計画シート作成(担当課)
- 4 11月下旬から12月下旬  
予算査定(財務課)及び実施計画(総務課)が担当課とヒアリング
- 5 1月下旬から2月上旬  
理事者査定(町長・副町長)
- 6 2月中旬から下旬  
新年度予算記者発表



島 正孝 議員

## 攻めの誘客事業—その姿勢 やよし！久々に聴く熱情は



▶ 2 大リゾート施設無料開放という勇氣ある決断をしたのは、勝算があつてではない。今、何かしなければ、こんな時だからこそ、思い切った誘客をしなければ、町は一層活気を失い、当分その回復は望めないだろう。しかし、思い切って実施してみて、その効果に驚いているというのが正直な感想である。施設利用だけでなく、来町者はおつこと亭、道の駅信州葛木宿、その他の割引施設の利用という波及効果も十分にあった。この経験を、これからの観光富士見の活性化に生かして行きたい。

織田 昭雄 議員

## 公共施設の個別再編計画は 住民の理解が何よりも大切



▶ 町の人口は2045年には9489人と近年で一番多かった2005年の15,528人が39%も減少してしまうと言う予測であります。町は公共施設再編個別計画をたて継続するものと廃止するものを検討します。すでにご承知の様に富士見区にあるJR線路に架かる中学校橋が、令和6年から7年にかけて撤去する計画が町から地元を示されました。これは一例ですが、公共施設の見直しが進むのに伴い、町民の皆さんの理解とご協力、町の丁寧な説明は欠かせません。

名取久仁春 議員

## 町道廃止に伴う橋の 取り扱いは



▶ 町では橋の点検を計画的に実施している。その点検の結果、自動車通行は不可との判定を受けた橋がある。従って町としては、その橋を町道から外す。橋の扱いについては、地元区から公共物管理条例の許可申請が出された段階で検討していく。占用許可を出す場合の今後の橋の管理については、区の責任において安全管理に気を付けるようお願いしていく。尚、今後も計画的に橋の点検を実施していき、評価結果に基づき対応していく。

## 議員は町民の声をどのよう

# 議 員

名取 武一 議員

## 町の行政文書から順次性別記載欄がなくなります



▶ 私は議会で町の行政文書の性別に関する記載を性的少数者に配慮して見直すことを求めました。町は性の多様性や性的少数者の抱える問題に対し人権尊重から、法律や政令、県の条例等で定められていない場合は、性別欄を廃止することを進める必要があると考え、印鑑登録証明書から性別記載欄を削除、障がい者関係の申請書類にも性別欄があり削除し、他の様式においても見直す必要のものがあるが、要綱改正を伴うものもあるため、順次削除に向けて進めていきたいということでした。

川合 弘人 議員

## 未発掘の遺跡、 埋蔵文化財は町の財産、宝物



▶ 30年間にわたる圃場整備事業などにより、八ヶ岳山麓の縄文時代の主要な遺跡は消滅した。しかし、富士見町は消滅率が低く、多くの遺跡が手つかずのまま残っている。遺跡の密集地で、未発掘の遺跡がまだまだ多数あるのは全国的にも珍しく、奇跡に近い。大規模集落のあった休戸の広原遺跡は、開発の危機にあったが、学芸員の努力により破壊を免れた。埋蔵文化財を町の財産としてどう守り、発掘調査が行われるかは課せられた課題だ。町民の皆さんと認識を共有し、文化財行政を進めたい。

## そして、議会はこう動く



議会改革実行委員会の提言を受け、富士見町議会では決算は終わったことにしないという考えのもと『議会発・政策サイクル』を稼働させます。決算から予算への連動。その為に、決算後、全議員で全会一致の政策提言をまとめ、町長に提言し予算に繋げていきます。個々の議員の予算への提言と並行して、「議会としての考え」を示すことを目指します。



7 3月上旬から中旬  
3月定例会 予算特別委員会にて審査  
議会最終日にて決議「予算成立」と  
なります。

町民の  
声  
が  
議会を動かす